

4.2 白金地域活動

◇第 32 回ふれあい運動会（白金小学校での地域運動会）

目的	白金地域の人々が集う運動会の運営を円滑なものにすべくサポートする
場所	港区立白金小学校 グラウンド
活動内容	用具の設置、会場の飾りつけ、競技の見本としてグラウンドを走る
活動日時、 参加人数	2016年4月29日（金・祝） 8名（内、学生メンバー1名）、コーディネーター1名

実施概要

白金地域の人々が集い、交流の場となっている運動会にボランティアとして参加させていただいた。具体的な活動内容としては、会場内の飾り付け、用具等の運搬、その他運営の方々の補佐がメインであり、障害物競走の見本としてグラウンドを走る場面もあった。白金地域でのボランティアということもあり、参加学生は3年生以上が多かった。地域の方々は学生に対し、気さくで温かく迎えてくださり、とてもボランティア活動がしやすい環境であった。

感想・活動を通して得た学び

私はこれまで、横浜キャンパスの周辺でボランティアをする機会には恵まれていたが、白金キャンパス周辺でボランティアをするのはこれが初めてであった。過去に戸塚地域でも小学校でのボランティア活動に参加したことがあるが、今回の活動を振り返ってみると、同じ小学生でも戸塚地域と白金地域では雰囲気は全く異なっていることに気づいた。こういった違いからは、生活環境が人に与える影響の強さのようなものが感じられ、社会学を学ぶ身として大変に価値のある経験ができたと思っている。

今後に向けて

白金地域ということもあって、下級生が参加しづらいことが同ボランティアの一番の課題であると考えている。これは白金小学校の地域運動会に限らず、白金キャンパス周辺で開催されるボランティア活動の多くが直面する問題であろう。2017年度から、白金地域セクションがボランティアセンター内で立ち上がるため、一定の参加学生は確保されることが予想される。それでもなお、下級生に同ボランティアを通じての学びを伝えていくためには、もう一歩踏み込んだ広報活動が必要となるだろう。

（学生メンバー 社会学部社会学科）

◇One Minute Video コンテスト（日本ユニセフ協会）

目的	世界の子どもたちの現状を知るとともに、運営を通じて自分の視野を広げる
場所	日本ユニセフ協会
活動内容	One Minute Video コンテストの審査・運営
活動日時、 参加人数	①2016年4月23日（土）13:30～17:00、キックオフミーティング、3名（内、学生メンバー1名） ②8月8日（月）10:00～17:00、一次審査、3名（内、学生メンバー1名）

③8月16日（火）13:00～17:00、練習、2名
④8月18日（木）10:00～17:00、練習・リハーサル、2名
⑤8月19日（金）10:00～18:00、One Minute Video コンテスト当日、2名

実施概要

One Minute Video コンテストとは、1分間の映像を通して子どもたちがメッセージを発信するもので、日本ユニセフ協会が関わるものとしては今年で5回目の開催となった。学生事務局として5大学合同（東海大学、文教大学、駿河台大学、上智大学、明治学院大学）で活動し、初日のキックオフミーティングではコンテストの概要を学んだほか、世界の子どもたちが置かれている状況やユニセフの取り組みについて学びを深めた。活動日とは別に個人で応募作品を見た後、議論しながら一次審査をおこなった。その後二日間は、コンテストの進行や、休憩時間を利用して実施する学生イベントのリハーサルなどを行った。

感想・活動を通して得た学び

初めてコンテストの運営を体験したが、想像していたより楽しくやりがいのあるものだった。他大学との交流で刺激を受けると同時に、お互いに連携し合う重要性を改めて感じた。体力のいる作業だったが、数多くの映像に触れたことで効果的な情報の伝え方や手段について考えさせられた。また、子どもたちのさまざまな思いを知ることができ、考え方が広がった。

今後に向けて

イベントの運営や映像など、今まで関わる事がなかった分野に取り組んだことで、たくさんの気づきがあった。これからの活動に生かし、また新たなことに挑戦してみたいと思った。このような経験ができたことに感謝したい。

（国際学部国際キャリア学科）

◇みなと区民まつり、食べきりプロジェクト（港区との連携）

目的	港区と明治学院大学との連携を深める
場所	①みなと区民まつり：明治学院大学、東京都港区芝公園一帯（区立芝公園、都立芝公園、増上寺、東京タワー） ②食べきりプロジェクト：明治学院大学、麻布十番商店会、芝商店会、ニュー新橋ビル商店会
活動内容	①ごみを減らすための「リユース食器返却ブース」と3Rの重要性を伝える「港区3R推進行動会議ブース」へ足を運んだ方に対し、リユース食器の回収や3R推進の呼びかけをするボランティア活動 ※3R：Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル） ②港区にある飲食店・ホテル等を対象とした「食べきり協力店登録制度」を広めるために区内の飲食店を巡り、制度の紹介をする
活動日時 参加人数	①2016年9月7日（水）9:50～11:50、メンバー打ち合わせ、7名 10月8日（土）9:00～18:00、みなと区民まつり当日、7名 10月9日（日）9:00～17:00、みなと区民まつり当日、11名

活動日時	②2016年9月24日(土) 9:30~10:30、メンバー顔合わせ、5名
参加人数	12月2日(金) 10:00~11:00、食べきり協力店訪問(ニュー新橋ビル商店会)、2名
(続き)	12月2日(金) 18:15~19:15、食べきり協力店訪問(芝商店会)、2名
	12月3日(土) 10:30~11:30、食べきり協力店訪問(麻布十番商店会)、1名

実施概要

みなと区民まつりは、さまざまな区民のふれあいの場、連帯の場を作ることにより、区民の地域への愛着を高めることを目的とし開催されている。学生ボランティアは来場者に向けて、ごみを減らすためのリユース食器の回収や3R推進の呼びかけをおこなった。食べきりプロジェクト「MOTTAINAI MINATO 食べきり感謝プロジェクト」は、飲食店での食品ロス(食べ残し)を削減する港区の啓発活動で、行政の方と一緒に商店会を訪問し「食べきり協力店登録制度」の紹介をおこなった。また、二つの活動は港区にある他大学の学生とともに活動した。

感想・活動を通して得た学び

行政という、普段関わる機会が少ない専門職の方と活動ができ、とても新鮮で貴重な経験になった。東京都港区にある大学の学生だからこそできる活動を経験することができた。活動を通して、港区に関心を持ち、港区にどのような社会問題があるのかを発見することができた。また、来場者や協力者に対する呼びかけは、一人ひとりの心に思いを届けるように伝えることが重要であると学んだ。

今後に向けて

リユース食器や3R、食品ロスは、私たちの暮らしを少し変えるだけで環境を変え、守ることができるため、学内でも呼びかけや勉強会をおこないたい。学生が主体的に港区の社会問題に関心を持ち、問題を解決していくべきである。港区との連携を図るため、ボランティア活動など継続的な活動を実施したい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)



みなと区民まつり
学生ボランティア集合写真

◇目黒区民まつり(目黒のSUNまつり)

目的	祭りの運営ボランティア
場所	目黒駅前商店街(目黒区民センター)
活動内容	目黒区民センターで裏方の仕事
活動日時	2016年9月18日(日) 9:00~18:00
参加人数	9名

実施概要

目黒のさんま祭りの際に目黒区民センターで催される「おまつり広場」で、落語、和太鼓などのさまざまな演目の準備・片付けなどの手伝い。具体的には、演目と演目の間で、演者たちが乗る台、椅子、楽器や小物などを運搬する作業をした。

感想・活動を通して得た学び

今回のボランティアでは、今までとは違った視点で祭りに参加することができた。これまでは祭りに参加する立場でしかなかったが、ボランティアを通して、運営する側がいかにして働き、どれだけ祭りにとって不可欠であるかということが実感できたと思う。また、協力することの大切さ、そして祭りに参加された人々が喜んでいる姿を見て、非常に嬉しく感じた。休憩時間に食べさせていただいたさんまは格別で、忘れることのない思い出になった。

今後に向けて

ボランティアに参加することで、今までとは違った価値観で物事を考えられるようになった。これからはボランティアで得たことを生かしていきたいと思う。またボランティアに参加できる機会があれば積極的に参加していきたい。

(経済学部経済学科)

◇みなとキャンプ村（港区青少年対策高松地区委員会）

目的	小中学生が大自然の中で2泊3日のキャンプをし、さまざまな体験活動をする
場所	平山キャンプ場（山梨県北都留郡）
活動内容	班のリーダーと炊事担当に分かれ、子どもたちの指導、見守り
活動日時、参加人数	2016年8月20日（土）～8月22日（月） 8名（内、学生メンバー1名）

実施概要

港区の高松地区の小学3年～中学3年の子どもたち38人が2泊3日でキャンプ場に行った。キャンプでは、野外炊飯、ハイキング、キャンプファイヤー、花火大会などの都会では味わえない体験をすることができた。引率学生には、事前研修会が3回あり、引率者同士の顔合わせ、綿密な協議、打ち合わせがおこなわれた。

感想・活動を通して得た学び

私は炊事担当であったため、子どもたちを俯瞰して見ることができた。出会って間もない子どもたちが、打ち解けて仲良くなっていく姿は、見ていてとても微笑ましかった。

また、この活動では、事前準備がとても重視されていた。昨年度の反省をもとにした協議や、当日の行程、応急処置の仕方などについて詳しい説明がされた。活動当日も、1日ごとに反省会がおこなわれ、自分たちの活動の良かった点、改善点を客観的に知ることができた。

今後に向けて

2泊3日のキャンプは大変なことも多かったが、全体として楽しかったこと、思い出に残ることが多くあった。こうした貴重な体験をするチャンスがあれば、これからも参加していきたいと感じた。

(心理学部教育発達学科)

◇三浦半島いちご狩り（港区青少年対策高松地区委員会）

目的	小学生が班行動をしながら、いちご狩りや公園遊びの体験をする
場所	津久井浜観光農園、長井海の手公園（ソレイユの丘）（神奈川県横須賀市）
活動内容	班のリーダーとして、子どもたちの見守り、バスレク等のふれあい
活動日時、 参加人数	2017年2月11日（土・祝）7:45～17:40 10名（内、学生メンバー2名）

実施概要

高松地区の小学生86人（対象1～6年生、今回は低学年中心）が、6班に分かれ、いちご狩り体験と公園遊びをした。学生は班のリーダーという立場で子どもたちと接し、バスレクもおこなった。また、引率者事前研修会が実施され、事前に引率者同士の交流、活動の概要について知る機会を持つことができた。

感想・活動を通して得た学び

今回の引率者には、夏のみなとキャンプ村にも参加した人や、本学の教育発達学科の学生が多かったため、お互いの経験を生かし、工夫した活動ができていたのではないかと思う。

また、今回の活動では、一つの班にリーダーが複数いたため、班全体を見ながら、協力して臨機応変に対応することが求められた。こうしたことを実践のなかで学べたのは大変貴重なことだったと思う。

今後に向けて

活動後の反省会では、子どもたちをまとめることの難しさが意見として多く挙がった。どのように接すれば、子どもたちと楽しく、安全に活動できるのか、これからもっと学んでいきたいと感じた。

（心理学部教育発達学科）